

**第2次南アルプス市総合計画  
後期基本計画・施策マネジメントシート**

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	農政課、農業委員会事務局
施策No.	18	施策名	農林業の振興	施策主管課長名	清水 学
施策関連課名			農林土木課、農業委員会事務局		

**1 施策の目的と指標**

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
A) 農業生産者(農家) B) 農地	A 農家戸数(農林業センサス) B 経営耕地面積(農林業センサス) C	戸 ha
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
A) 農業所得が向上する B) 農地として適切に保全される	① 農業収入 ② JA南アルプス市における農産物の販売実績 ③ 遊休農地比率 ④	千円 千円 %
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 農業収入の状況を示す/市内農家の農業所得が向上することが意図であるため、「農業収入」を成果指標とした。なお、「農業所得」だと控除すべき項目を引いてマイナスとなる税申告が多いため、「農業収入」とした。 ② 農産物の販売状況を示す/市内農家の多くはJA南アルプス市に出荷しており、その販売実績が増えることは、市内農家の農業所得の向上につながるため、成果指標とした。 ③ 農地の保全状況を示す/農地が農地として適切に利用・保全されていけば、遊休農地は減る(増えない)ので、成果指標とした。 ④	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 税務課の当該年度の課税データ「農業収入」の総額 ② JA南アルプス市の1年間の農産物の販売額 ③ 耕作放棄地面積÷(耕作放棄地面積+経営耕地面積)×100 ④	

**2 指標等の推移**

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 農家戸数(農林業センサス)	戸	見込み値					2,399	2,399	2,399	2,399	2,399	2,399
		実績値	2,399	2,399	2,399	2,399	2,399					
		目標値										
対象指標 B 経営耕地面積(農林業センサス)	ha	見込み値					1,656	1,656	1,656	1,656	1,656	1,656
		実績値	1,656	1,656	1,656	1,656	1,656					
		目標値										
成果指標 ① 農業収入	千円	目標値	-	-	-	-	-	690	700	710	720	730
		実績値	622	650	632	665	659					
		目標値										
成果指標 ② JA南アルプス市における農産物の販売実績	千円	目標値	-	-	-	-	-	530	540	550	560	570
		実績値	448	477	460	510	464					
		目標値										
成果指標 ③ 遊休農地比率	%	目標値	10.7	10.2	9.7	9.2	8.7	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6
		実績値	13.2	12.5	13.2	13.6	11.7					
		目標値										
④												
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)												
① 市内農家の農業収入は近年増加傾向が見受けられるが、前期基本計画の実績値では各年で増減が見受けられ平均値で1.2億円の増が確認されている。後期基本計画では積極的PRを推進し自然環境等の影響に伴う生産量の増減を考慮に入れる中、目標値には毎年1億円を加算する。												
② JA南アルプス市の販売実績では近年増加傾向が見受けられるが、前期基本計画の実績値では各年で増減が見受けられ平均値は1.5億円の増が確認されている。後期基本計画では新たな販路の拡充を推進し自然環境等の変化に伴う収入の影響を考慮に入れる中、目標値には毎年1億円を加算する。												
③ 市の農業委員が毎年現地調査を実施し算出する「耕作放棄地面積÷(耕作放棄地面積+経営耕地面積)×100」を基本に目標値を設定するが、近年増加傾向が継続しているため前期基本計画最終年度の数値を後期基本計画の目標値に設定し、維持を基本とし保全に取り組む。												
④												

**3 施策の役割分担**

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> <li>農家は、農産物の生産量を増やし、高品質の農産物を生産する。</li> <li>農家は、生産した農産物の販路拡大に努める。</li> <li>農地の所有者は、農地の荒廃化を防ぐ。</li> <li>市民は、地元農産物を積極的に購入する。</li> <li>関係機関は、できるだけ多くの販路を拡充し、農産物のブランド化に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産性向上に繋がる支援に取り組む。</li> <li>農産物の高品質化とブランド化を推進する。</li> <li>農地の保全と有効利用を推進する。</li> <li>森林の保全に取り組む。</li> </ul>

**4 施策の状況変化・住民意見等**

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R3年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業従事者の高齢化と担い手不足が進み農産物の生産量低下が見込まれる。</li> <li>遊休農地の比率が増加傾向にあり、優良農地の面積減少が見込まれる。</li> <li>近年農産物の出荷方法において、個人出荷が数多く見受けられる。</li> <li>森林環境譲与税を活用した私有林整備が計画的に進められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者への支援充実</li> <li>農業後継者への支援充実</li> <li>遊休農地解消への支援と利活用</li> </ul>

**5 予算等の推移**

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	92				
関連事業予算額(単位:千円)	558,160				
(予算額の内訳)	国庫支出金	0			
	県支出金	121,756			
	地方債	150,100			
	その他	35,671			
	一般財源	250,633			

(1) 目標達成度(目標値との比較)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった	<p>遊休農地の比率については、農業委員会による調査基準の明確化や統一化、中野地区への農業生産法人の新規参入などの要因により、H30年度に比べ1.9ポイント減少したが、ここ数年は大きな変動は認められず目標値を大きく下回っている。</p> <p>上記以外の成果指標については目標値の設定がない。</p>
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	<p>前期基本計画の実績値を時系列にみると、農業収入及びJA南アルプス市における農産物の販売実績については、天候の推移がその増減に大きく関わっており、収穫期まで順調に推移し高収益に繋がったH30年度を除き、ほぼ横ばいである。遊休農地の比率についても、大きな変動は認められない。</p>
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	<p>遊休農地の比率について、全国農業会議所公表の農業委員会点検評価データを基に、本市の数値と本県中北管内の平均値を比較すると、本市は11.7%、中北管内は10.6%であった。</p> <p>上記以外の成果指標については、他団体から比較できるデータの公表がない。</p>

## 7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
<p>・農業従事者が積極的に農業に取り組み、高収入高所得が見込まれる農業への転換を推進を支援し、農業従事者の増加と農産物の生産性向上を促し、農地の保全に繋げる。</p>

## 8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R2年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R3年度)の方針

基本事業	今年度(R2)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R3)の方針
1 担い手の確保と育成	<p>担い手確保と育成の主要事業である「地域おこし協力隊支援事業」(生活の拠点を都市部から地方に移し、地域活動を行いながらその地域へ定住・定着を図る取組)について、隊員の受け入れを担う次期支援機関(第4期:R3～5年度)の募集を行う。</p> <p>現在、農業研修中の隊員6人(第3期:H30～R2年度)に対しては、卒業後の就農・定住に向けた制度説明会・相談会等を行う。</p> <p>第1期生(H24～26年度)及び第2期生(H27～29年度)の動向をみると、これまで14人中1人しか本市に就農・定住していない。第3期生6人(H30～R2年度)をいかに就農・定住に結びつけるかが大きな課題である。</p>	<p>支援機関は、事業の趣旨を理解しつつ新規隊員(第4期生)を受け入れ、その隊員が本市に就農・定住できるよう指導・支援を行う。</p> <p>新規隊員は、将来の就農・定住に向け市の委嘱を受けて農業技術の習得に努める。</p> <p>市は、新規隊員の活動を支援するとともに、卒業後の隊員に対しても支援機関と連携して資金面及び農地確保等の支援を行う。</p>
2 遊休農地解消の促進	<p>現在、農業委員会及び農地中間管理機構と連携し遊休農地・荒廃農地解消に取り組んでおり、市広報誌やホームページ、農業委員会だより「遊休農地等流動化促進事業奨励補助金制度」について掲載し、農地の荒廃防止と流動化を促進している。</p> <p>また、本年4月からJA南アルプス市との協議により、Aコープ白根店及び甲西店に農地賃借情報掲示板を設置して情報の発信にも取り組んでいる。</p> <p>農業者の高齢化の進展などから遊休農地の発生・増加が懸念される。</p>	<p>農地法に基づく農業委員会の対策強化や、現行の「遊休農地等流動化促進事業奨励補助金制度」の補助要件(対象者や対象農地、補助単価など)の見直しを行い、農業委員会と農地中間管理機構及びJA南アルプス市と連携しながら、遊休農地等の発生防止と流動化を促進していく。</p>
3 農産物の高品質化と付加価値の向上	<p>有望品種の生産力強化のため、種苗の購入補助等により高品質な農産物の生産量を増やす取り組みを行っている。また、本市産のシャインマスカットなどの果物を使用したコラボ商品を首都圏及び静岡でPRして、認知度を高めるとともに付加価値の向上にも努めている。今後の課題として、中京圏へのPRを検討する。</p>	<p>高収益を見込める農産物の種苗の購入補助等により生産量を増やすつ、付加価値を高めるため、JA南アルプス市及び市観光協会などと連携し、県外へのPR活動を強化・推進していく。</p>
4 農業経営安定化への支援	<p>令和元年に、モモせん孔細菌病が全県下で蔓延したため、農家が行う薬剤防除に係る費用の一部を補助し細菌病の低減に取り組んだ。</p> <p>今年も昨年以上の多発生が確認されたことから、JA南アルプス市と連携し、農家の防除対策の支援に取り組んでいく。</p> <p>収穫量の減少と防除費用の増大は、モモ農家の生産意欲に大きく影響し、このままでは産地の衰退に繋がるおそれがある。</p>	<p>モモのせん孔細菌病の多発生への対応は、薬剤防除の回数を増やす対策が有効であるが単年では効果が薄く、複数年の取り組みが求められる。</p> <p>このため、R3年度以降も、被害状況に応じた効果的な防除対策が図れるよう支援に取り組んでいく。</p>
5 鳥獣被害対策の推進	<p>鳥獣被害対策については、農作物の収穫間際の被害が発生しており増加傾向にあるため、罠の設置数を増やしたりバトロール回数を増やすなどの対応をとっている。</p> <p>収穫量の減少は営農意欲の減退に繋がることから、遊休農地の発生・増加が懸念される。</p>	<p>JA南アルプス市及び猟友会と連携し対策(バトロール・追い払い・駆除)を行っていくが、被害報告の多いエリアについては、更なる強化(バトロール回数の増及び大型囲い罠の設置等)を図っていく。</p>